



# IVR および電話サービスを使用したネイティブ電話機の移行

- [IVR および電話サービスを使用したネイティブ電話機の移行の概要 \(1 ページ\)](#)
- [電話機移行の前提条件 \(5 ページ\)](#)
- [セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行タスクフロー \(5 ページ\)](#)
- [電話機移行サービスを使用した電話機移行タスクフロー \(13 ページ\)](#)
- [電話機移行レポートの表示 \(17 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して電話機を移行 \(18 ページ\)](#)
- [移行シナリオ \(19 ページ\)](#)

## IVR および電話サービスを使用したネイティブ電話機の移行の概要

電話機の移行機能は、Unified Communications Manager 特有の、簡単でわかりやすい Cisco IP 電話移行ソリューションです。廃止または故障した電話機への置き換えコストと複雑さを最小限に抑えるために使用されます。このソリューションを使用すると、エンドユーザまたは管理者が、簡単なユーザインターフェイスですべての設定を古い電話機から新しい電話機に簡単に移行できます。ソリューションは、電話機を移行する次の方法をサポートしています。

- セルフプロビジョニング IVR サービスの使用
- 電話移行サービスの使用
- Cisco Unified CM の管理インターフェイスの使用

次の表では、さまざまな電話機移行オプションを簡単に比較しています。

表 1:異なる電話機の移行オプションと検討事項

	セルフプロビジョニング IVR サービスの使用	電話移行サービスの使用	Unified CM の管理インターフェイスの使用
エンドユーザまたは管理者が駆動する電話機の移行	エンドユーザ (セルフサービス)	エンドユーザ (セルフサービス)	管理者
要自動登録	可	不可	不可
移行手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい電話機の自動登録</li> <li>セルフプロビジョニング IVR 番号のダイヤル</li> <li>音声プロンプトに従う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい電話機をネットワークに差し込む</li> <li>プライマリ内線および PIN のキー入力 (オプション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified CM の管理インターフェイスへのサインイン</li> <li>古い電話機の [電話設定] ページの、[電話機を移行する] オプション</li> <li>新しい電話機のタイプ (モデル &amp; プロトコル) と MAC アドレスを入力</li> </ul>
管理者の関与	中	低	高



(注) セルフプロビジョニング IVR サービスと電話機移行サービスを使用した電話機の移行では、セルフサービスとしてのエンドユーザによる電話機の移行が容易です。管理者は、これらの方法を使用して、エンドユーザまたは一般電話機 (ロビー電話機など) に代わって電話機を移行できます。



(注) 電話の移行中に、エンドユーザが暗証番号を覚えていない場合は、管理者がエンドユーザに対して、必要に応じてセルフ ケア ポータルにログインして暗証番号を変更してください。

## 電話機移行用の企業パラメータ

移行は、[エンタープライズパラメータの設定] ページで次の 2 つのパラメータによって異なります。

- **エンドユーザーに代替電話機をプロビジョニングする場合:** 既存の電話機の保持 (デフォルトオプション) の選択、またはそのエンドユーザーの既存の電話機の削除を選択できます。[既存の電話機を保持] オプションを選択した場合、移行中に古い電話機が移行済みとしてマークされ、[電話機の検索とリスト] ページでフィルタリングして移行レポートを生成できます。



- (注) 管理者が電話移行用に [既存の電話機を保持] オプションを選択すると、合計 2 つのライセンスが使われます。つまり、既存の電話機に対してそれぞれ 1 つのライセンスを、移行用にピックアップした新しい電話機です。



- (注) 電話機の移行中に、管理者が電話機を移行するために [既存の電話機を保持] オプションを選択する場合、インターコム DN は新しいデバイスに移行されません。[そのエンドユーザーに対して既存の電話機を削除] オプションを選択すると、インターコム DN 情報も移行されます。

- **移行された電話機のセキュリティ プロファイル:** このオプションは、電話機の移行中に、移行済み電話機に適用されるセキュリティ プロファイルのタイプ (古い電話機はセキュアモード) を決定します。非セキュア プロファイルを選択すると、デバイスは非セキュアモードになります。
- **電話機の移行ユーザ ID プロンプト:** このパラメータは、ユーザがセルフサービス ユーザ ID を使用して電話機の移行を続行できるかどうか、またはプライマリ内線番号を使用できるかどうかを決定します。[エンドユーザーセルフサービスユーザ ID を使用] オプションを選択した場合、エンドユーザーは、電話の移行を実行する前に、固有のセルフサービス ユーザ ID を入力するようプロンプトされます。[エンドユーザープライマリ内線番号を使用] オプションを選択した場合は、プライマリ内線番号の入力後に電話機を移行できます。このモードでは、異なるルートパーティションに同じ DN が存在する場合、IVR または電話機移行サービスを使用した電話機の移行はできません。

デフォルト値は、[エンドユーザー プライマリ内線を使用] です。

安全な電話移行を容易にするために、次の Standard Universal Phone セキュリティ プロファイル テンプレートが追加されています。古い電話機のセキュリティ プロファイルに基づいて、新しい電話機は次の新しいプロファイルのいずれかを選択します。

- Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 非セキュア
- Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 認証済み
- Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 暗号化済み
- Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 暗号化済み - Device\_TFTP

- Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 暗号化済み EC 優先

次の表は、電話機の移行後に新しいデバイスのセキュリティプロファイルのマッピングを示します。

表 2: 電話機のセキュリティ プロファイルの移行データ

古いセキュリティ プロファイル設定				新しいマップされたプロファイル名
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	TFTP 暗号化設定	Transport Type	キー順序	
非セキュア	不可	[TCP]	RSA	Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 非セキュア
認証済み	不可	TLS	RSA	Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 認証済み
暗号化済み	不可	TLS	RSA	Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 暗号化済み
暗号化済み	可	TLS	RSA	Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 暗号化済み - Device_TFTP
暗号化済み	可	TLS	EC 優先、RSA バックアップ	Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 暗号化済み - Device_TFTP
暗号化済み	不可	TLS	EC 優先、RSA バックアップ	Universal Device Template - セキュリティ プロファイル - 暗号化済み EC 優先

## 電話機移行の前提条件

### セルフプロビジョニング IVR の使用

エンドユーザが移行でセルフプロビジョニングを使用できるようにする前に、次の設定を構成する必要があります。

- 自動登録の有効化
- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。プライマリ DN が電話機またはデバイス上で常に回線 1 であることを確認します。
- エンドユーザは、ユニバーサル回線テンプレート、ユニバーサルデバイステンプレート、および自己プロビジョニングが有効になっているユーザプロファイルまたは機能グループテンプレートに関連付ける必要があります。
- 適切な「CTI ルートポイント」と「アプリケーションユーザ」の設定が選択されていることを確認します。
- セルフプロビジョニングの IVR サービスを有効にします。

### 電話移行サービスの使用

エンドユーザが移行で電話移行サービスを使用できるようにする前に、次の設定を構成する必要があります。

- 自動登録の無効化
- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。プライマリ DN が電話機またはデバイス上で常に回線 1 であることを確認します。
- サポートされる電話機モデル: 88XX、78XX、8832、および 7832。
- サポートされている電話機のバージョンは、リリース 12.8.1 以上です。

## セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行タスクフロー

次のタスク フローを使用して、電話機の移行手順を説明します。

このワークフローを完了すると、セルフプロビジョニングの IVR サービスを設定したり、古いまたは異常な Cisco IP 電話を移行したり、移行された電話リストを追跡したりすることができます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	セルフプロビジョニングのサービスの有効化 (7 ページ)	Cisco Unified Serviceability で、[セルフプロビジョニング IVR (Self-Provisioning IVR)] サービスと [CTI Manager (CTI Manager)] サービスを有効にします。
ステップ 2	セルフプロビジョニングの自動登録の有効化 (7 ページ)	セルフプロビジョニング用の自動登録パラメータを有効にします。
ステップ 3	CTI ルート ポイントの設定 (8 ページ)	セルフプロビジョニングの IVR サービスを処理するために、CTI ルートポイントを設定します。
ステップ 4	CTI ルートポイントのディレクトリ番号を追加する (8 ページ)	ユーザが自動プロビジョニング IVR にアクセスするためにダイヤルインする内線番号を設定し、その内線番号を CTI ルートポイントに関連付けます。
ステップ 5	セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定 (9 ページ)	セルフプロビジョニング IVR 向けのアプリケーションユーザの設定 CTI ルートポイントをアプリケーションユーザに関連付けます。
ステップ 6	セルフプロビジョニングのシステムの設定 (10 ページ)	自己プロビジョニングシステムの設定を構成します。
ステップ 7	ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化 (11 ページ)	ユーザが割り当てられているユーザプロファイルで電話機をセルフプロビジョニングできるようにします。
ステップ 8	次のいずれかの手順を使用して電話機を移行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (管理者) (12 ページ)</li> <li>セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (電話機ユーザ) (12 ページ)</li> </ul>	自分に適用される移行手順を選択します。セルフプロビジョニングの IVR は、管理者または電話機のいずれかのユーザが電話機を移行する際に使用できます。
ステップ 9	電話機移行レポートの表示 (17 ページ)	移行の後、移行された Cisco IP 電話を示すレポートを表示します。

## セルフプロビジョニングのサービスの有効化

セルフプロビジョニング機能をサポートするサービスをアクティブにするには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニング用 IVR サービスと Cisco CTI Manager サービスの両方が実行されていることを確認します。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
  - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストからパブリッシャ ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
  - ステップ 3 [CM サービス] で、**Cisco CTI Manager** を確認します。
  - ステップ 4 **CTI サービス** で、**セルフプロビジョニングの IVR** を確認します。
  - ステップ 5 [保存] をクリックします。
- 

## セルフプロビジョニングの自動登録の有効化

セルフプロビジョニングにこの手順を使用するためには、パブリッシャで自動登録パラメータを設定する必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM (Cisco Unified CM)] を選択します。
  - ステップ 2 パブリッシャノードをクリックします。
  - ステップ 3 プロビジョニングされた電話機に適用するユニバーサルデバイスプレートを選択します。
  - ステップ 4 プロビジョニングされた電話機の電話回線に適用するユニバーサル回線プレートを選択します。
  - ステップ 5 開始ディレクトリ番号と終了ディレクトリ番号フィールドを使用して、プロビジョニングされた電話機に適用する一連のディレクトリ番号を入力します。
  - ステップ 6 [このCisco Unified CMでは自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオフにします。
  - ステップ 7 SIP 登録に使用するポートを確認します。ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。
  - ステップ 8 [保存] をクリックします。
-

## CTI ルートポイントの設定

セルフプロビジョニング IVR 用の CTI ルートポイントを設定するには、この手順を使用します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。
  - a) [検索 (Find)] をクリックし、既存の CTI ルートポイントを選択します。
  - b) [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい CTI ルートポイントを作成します。
- ステップ 3 [デバイス名 (Device Name)] フィールドに、ルートポイントを識別する一意の名前を入力します。
- ステップ 4 [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウンリストで、このデバイスのプロパティを指定するデバイスプールを選択します。
- ステップ 5 [ロケーション (Location)] ドロップダウンリストから、この CTI ルートポイントの適切なロケーションを選択します。
- ステップ 6 [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager がこのメディアエンドポイントを使用してトラステッドリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。デフォルト設定では、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の設定が使用されます。
- ステップ 7 [CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 8 [保存] をクリックします。

## CTI ルートポイントのディレクトリ番号を追加する

セルフプロビジョニング用の IVR にアクセスするためにユーザがダイヤルする内線番号を設定するには、この手順を使用します。この内線を、セルフプロビジョニングに使用する CTI ルートポイントに関連付ける必要があります。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration) から [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、セルフプロビジョニング用に設定した CTI ルートポイントを選択します。



- ステップ3** [割り当て (Association) ] で、[回線 [1] - 新しい DN の追加 (Line [2] – Add a new DN) ] をクリックします。  
[電話番号の設定(Directory Number Configuration)]ウィンドウが表示されます。
- ステップ4** [ディレクトリ番号]フィールドで、セルフプロビジョニングの IVR サービスにアクセスするためにユーザにダイヤルする内線番号を入力します。
- ステップ5** [保存] をクリックします。
- ステップ6** [ディレクトリ番号設定 (Directory Number Configuration) ]ウィンドウの残りのフィールドに入力します。 フィールドとその設定の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ7** [保存] をクリックします。

## セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定

セルフプロビジョニング IVR 用にアプリケーション ユーザを設定し、アプリケーション ユーザに作成した CTI ルーティング ポイントを関連付ける必要があります。

### 手順

- ステップ1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ (User) ]>[アプリケーションユーザ (Application User) ] を選択します。
- ステップ2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のアプリケーション ユーザを選択するには、[検索 (Find) ] をクリックして、アプリケーション ユーザを選択します。
  - 新しいアプリケーション ユーザを作成するには、[新規追加] をクリックします。
- ステップ3** [ユーザ ID (User ID) ] テキスト ボックスに、アプリケーション ユーザの一意の名前を入力します。
- ステップ4** アプリケーション ユーザの [BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group) ] を選択します。
- ステップ5** アプリケーション ユーザに作成した CTI ルーティング ポイントを関連付けるには、次の手順を実行します。
- 作成した CTI ルーティング ポイントが、[使用可能なデバイス (Available Devices) ] リストボックスに表示されない場合は、[別のルート ポイントを検索 (Find More Route Points) ] をクリックします。  
作成した CTI ルーティング ポイントが、使用可能なデバイスとして表示されます。
  - [使用可能なデバイス (Available Devices) ] リストで、セルフプロビジョニング用に作成した CTI ルート ポイントを選択し、下向き矢印をクリックします。  
CTI ルート ポイントが [制御するデバイス (Controlled Devices) ] リストに表示されます。
- ステップ6** [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration) ] ウィンドウの他のフィールドを設定します。 フィールドとその設定の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ステップ7 [保存] をクリックします。

## セルフプロビジョニングのシステムの設定

システムをセルフプロビジョニング用に設定するには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニングは、ネットワーク内のユーザが管理者に連絡をとらずにIVRシステムを介して自分のデスクフォンを追加できる機能を提供します。



(注) セルフプロビジョニング機能を使用するには、エンドユーザのユーザプロファイルでも該当機能を有効にする必要があります。

### 手順

- ステップ1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。
- ステップ2** セルフプロビジョニング IVR でエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプションボタンのいずれかをクリックします。
- [認証が必要 (Require Authentication)] : セルフプロビジョニング IVR を使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。
  - [認証は必要なし (No Authentication Required)] : エンドユーザは認証なしでセルフプロビジョニング IVR にアクセスできます。
- ステップ3** セルフプロビジョニング IVR で認証を要求するように設定されている場合、次のオプションボタンのいずれかをクリックして、IVR がエンドユーザを認証する方法を設定します。
- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)] : エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
  - [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))] : エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。
- ステップ4** [IVR 設定 (IVR Settings)] のリストボックスから、矢印を使用して IVR プロンプトで使用する言語を選択します。使用可能な言語は、システムにインストールした言語パックによって異なります。追加の言語パックをダウンロードするには、[cisco.com](http://cisco.com) のダウンロードセクションを参照してください。
- ステップ5** [CTIルートポイント (CTI Route Points)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング IVR 用に設定した CTI ルートポイントを選択します。

**ステップ6** [アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング用に設定したアプリケーション ユーザを選択します。

**ステップ7** [保存] をクリックします。

## ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化

ユーザが電話をセルフプロビジョニングできるようにするには、その機能が割り当てられているユーザプロファイルで有効になっている必要があります。



(注) ユーザが使用しているユーザ プロファイルがわからない場合は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでユーザの設定を開き、[ユーザプロファイル (User Profile)] フィールドで正しいプロファイルを確認できます。

### 手順

**ステップ1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザプロファイル (User Profile)] を選択します。

**ステップ2** [検索 (Find)] をクリックして、ユーザが割り当てられているユーザプロファイルを選択します。

**ステップ3** そのユーザプロファイルにユニバーサル回線テンプレートとユニバーサル デバイス テンプレートを割り当てます。

**ステップ4** セルフプロビジョニング用のユーザの設定

- [エンドユーザに自分の電話のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] チェックボックスをオンにします。
- ユーザがプロビジョニングできる電話機の数の制限を入力します。デフォルトは10です。
- ユーザがセルフプロビジョニングを使用して以前に割り当てられた電話機を無効にしたい場合は、古いデバイスのエンドユーザに関連付けられているユーザプロファイル ページで、別のエンドユーザに割り当てられている電話機の **[別のエンドユーザーにすでに割り当てられている電話のプロビジョニングを許可する]** 設定を確認します。以前に割り当てられた電話機をユーザが再割り当てできるのは、古いデバイスに関連付けられているユーザプロファイル内でこのチェックボックスをオンにした場合のみです。

**ステップ5** [保存] をクリックします。

## 電話機移行タスク

セルフプロビジョニング認証をセットアップした後、次の手順を実行して電話機を移行します。

## セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (管理者)

管理者はこの手順を使用して、エンドユーザの代わりに Cisco IP 電話を移行したり、一般的な電話機 (ロビーフォンなど) を移行したりできます。

### 始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続して、電話機が登録されてから移行タスクを実行することができます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

### 手順

- ステップ 1** セルフプロビジョニングの IVR に割り当てられている内線番号を新しい電話機からダイヤルします。
- ステップ 2** **2** を押すと、既存の電話機が置き換え可能です。
- ステップ 3** エンドユーザの電話機または共通の電話のプライマリ内線番号の後にポンドキー (#) を入力します。
- ステップ 4** 認証コードの後にポンドキー (#) を入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行の後、電話機は、エンドユーザの古い電話から移行された設定で再起動します。

## セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (電話機ユーザ)

電話機のユーザはこの手順を使用して、新しい Cisco IP 電話に移行できます。

### 始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続して、電話機が登録されてから移行タスクを実行することができます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

### 手順

- ステップ 1** セルフプロビジョニングの IVR に割り当てられている内線番号を新しい Cisco IP 電話からダイヤルします。
- ステップ 2** **2** を押すと、既存の電話機が置き換え可能です。
- ステップ 3** 電話機のプライマリ内線番号の後にポンドキー (#) を入力します。
- ステップ 4** ポンドキー (#) の後に PIN を入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。

(注) 電話機を別のユーザに割り当てる場合、管理者がユーザの [ユーザ プロファイル ウィンドウで別のエンドユーザに割り当てられている電話機のプロビジョニングを許可] オプションが有効になっている場合、電話機のユーザは電話機を再プロビジョニングできます。このオプションについて管理者に問い合わせてください。

## 電話機移行サービスを使用した電話機移行タスクフロー

次のタスク フローを使用して、電話機移行サービスを使用した電話機の移行手順を説明します。

このワークフローを完了すると、古いまたは異常な Cisco IP 電話を移行したり、移行された電話リストを追跡したりすることができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">自動登録の無効化 (13 ページ)</a>	電話機の移行前に、自動登録パラメータを無効にします。
ステップ 2	<a href="#">デフォルト電話機の負荷のセットアップ (14 ページ)</a>	電話機の移行サービスの前に、デフォルトの電話機の負荷を設定します。
ステップ 3	<a href="#">セルフプロビジョニング認証の設定 (14 ページ)</a>	必要なセルフプロビジョニング認証を設定します。
ステップ 4	次のいずれかの手順を使用して電話機を移行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">電話機移行サービスを使用した電話機の移行 (管理者) (15 ページ)</a></li> <li><a href="#">電話機移行サービス (電話機ユーザ) を使用して電話機を移行する (16 ページ)</a></li> </ul>	自分に適用される移行手順を選択します。電話機の移行サービスは、管理者または電話機のいずれかのユーザが電話機を移行する際に使用できます。
ステップ 5	<a href="#">電話機移行レポートの表示 (17 ページ)</a>	移行の後、移行された Cisco IP 電話を示すレポートを表示します。

## 自動登録の無効化

電話機移行サービスを使用するには、自動登録を無効にする必要があります。

## 手順

- 
- ステップ1 Cisco Unified CM Administration で、[システム]>[Cisco Unified CM] を選択します。
  - ステップ2 パブリッシャノードをクリックします。
  - ステップ3 [このCisco Unified Communications Manager では自動登録は無効にする] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ4 SIP 登録に使用するポートを確認します。ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。
  - ステップ5 [保存] をクリックします。
- 

## デフォルト電話機の負荷のセットアップ

電話機の移行サービスの前にデフォルトの電話機の負荷を設定するには、次の手順を使用します。

## 手順

- 
- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス]>[デバイスの設定]>[デバイスのデフォルト] を選択します。
  - ステップ2 移行に必要な電話機モデルを選択します。
  - ステップ3 電話機の負荷を入力し、電話機の負荷の[負荷の入れ替え]ボタンをクリックしてデフォルトの電話機の負荷になるようにします。
  - ステップ4 [保存] をクリックします。
- 

## セルフプロビジョニング認証の設定

電話機移行サービスは、セルフプロビジョニングシステム設定を使用して、電話機を移行する前にユーザを認証します。

## 手順

- 
- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)]>[セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。
  - ステップ2 セルフプロビジョニングでエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプションボタンのいずれかをクリックします。
    - **認証が必要**：セルフプロビジョニングを使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。

- **認証は必要なし**：エンドユーザは認証なしでセルフ プロビジョニング オプションにアクセスできます。

**ステップ 3** セルフ プロビジョニング機能で認証を要求するように設定されている場合、次のオプション ボタンのいずれかをクリックして、セルフ プロビジョニング オプションがエンドユーザを認証する方法を設定します。

- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)]：エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
- [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))]：エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。

**ステップ 4** [保存] をクリックします。

## 電話機移行タスク

セルフプロビジョニング認証をセットアップした後、次の手順を実行して電話機を移行します。

### 電話機移行サービスを使用した電話機の移行 (管理者)

管理者はこの手順を使用して、エンドユーザの代わりに Cisco IP 電話を移行したり、一般的な電話機 (ロビーフォンなど) を移行したりできます。

#### 始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続し、電話機の移行またはプロビジョニングのプロンプトが表示されるまで待機して、移行プロセスを開始できます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

#### 手順

**ステップ 1** 新しい Cisco IP 電話をネットワークに接続します。

**ステップ 2** オプション 2 を選択します。

- (注) 管理者がアクティベーションコードベースのデバイスの導入準備または電話機の移行を設定していない場合、Unified Communications Manager の 11.5(1)SU8 バージョンでアクティベーションコードをサポートしていない場合、電話機にはプライマリ内線番号を入力する画面が表示されます。

**ステップ 3** お使いの電話機のプライマリ内線番号を入力します。

**ステップ4** 認証コードを入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。

(注) [デバイスのデフォルト設定] ページの [自動登録] として [オンプレミスの導入準備方式] オプションが選択されているシナリオを検討してください。電話機の移行の実行中に、エラーメッセージが表示されたときに [EXIT] ボタンまたは [BACK] ボタンのいずれかを押し、予想される遅延の後、最初の電話機移行画面に直接移動します。この遅延は、電話機が Unified CM に再登録しようとして、Unified Communications Manager サーバで自動登録が無効になっている場合に発生します。

(注) 同じプライマリ内線を持つユーザ用のデバイスが複数ある場合、ユーザは、移行するデバイスを選択するように求めます。詳細については、[電話機の移行サービス: 複数のデバイスを割り当てられたユーザー \(19 ページ\)](#) を参照してください。

---

## 電話機移行サービス (電話機ユーザー) を使用して電話機を移行する

電話機のユーザはこの手順で、非 IVR 方式を使用して新しい Cisco IP 電話に移行できます。電話機をネットワークに接続すると、電話機は起動して設定を試行します。デフォルトの電話機負荷から、ユーザは [新しい電話機のプロビジョニング] または [既存の電話機の置き換え] のいずれかを選択するオプションを選択できます。



(注) エンドユーザは、古いデバイスの所有者である場合にのみ移行を実行する必要があります。

**始める前に**

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続し、電話機の移行またはプロビジョニングのプロンプトが表示されるまで待機して、移行プロセスを開始できます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

**手順**

**ステップ1** 新しい Cisco IP 電話をネットワークに接続します。

**ステップ2** オプション **2** を選択します。

(注) 管理者がアクティベーションコードベースのデバイスの導入準備または電話機の移行を設定していない場合、Unified Communications Manager の 11.5(1)SU8 バージョンでアクティベーションコードをサポートしていない場合、電話機にはプライマリ内線番号を入力する画面が表示されます。

**ステップ3** お使いの電話機のプライマリ内線番号を入力します。



#### ステップ4 PIN を入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。

(注) [デバイスのデフォルト設定] ページの [自動登録] として [オンプレミスの導入準備方式] オプションが選択されているシナリオを検討してください。電話機の移行の実行中に、エラーメッセージが表示されたときに [EXIT] ボタンまたは [BACK] ボタンのいずれかを押し、予想される遅延の後、最初の電話機移行画面に直接移動します。この遅延は、電話機が Unified CM に再登録しようとして、Unified Communications Manager サーバで自動登録が無効になっている場合に発生します。

(注) 同じプライマリ内線を持つユーザ用のデバイスが複数ある場合、ユーザは、移行するデバイスを選択するように求めます。詳細については、[電話機の移行サービス: 複数のデバイスを割り当てられたユーザー \(19 ページ\)](#) を参照してください。

## 電話機移行サービス COP ファイル

11.5 (1) から 11.5(1)SU7 まで Unified Communications Manager の任意のバージョンを実行している場合は、電話機移行サービス COP ファイル (ciscocm-migration-service-11-5-1.zip) をインストールして、ネイティブ電話機移行機能のサポートを受け取ります。

COP ファイルのインストールの一部として、Unified Communications Manager で「Tftp restart」サービスが自動的に実行されます。



(注) Phone Migration Service COP ファイルのインストール後に Unified CM をアップグレードする場合は、必ず、Unified CM サーバをネイティブフォン移行機能をネイティブサポートしているリリースバージョンにアップグレードしてください。

## 電話機移行レポートの表示

移行されたすべての Cisco IP 電話のリストを表示するには、この手順を使用します。

### 手順

- ステップ1 [Cisco Unified CM Administration] で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- ステップ2 [電話機の検索とリスト] ページで、[電話機検索] ドロップダウンリストから [移行(古い電話機)] を選択します。
- ステップ3 [検索(Find)] をクリックします。

移行したすべての古いデバイスのリストを表示できます。このリストが入力されるのは、[エンタープライズパラメータ] ページで [既存の電話機を保持する] オプションが設定されている場合のみです。

## Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して電話機を移行

Cisco Unified CM の管理インターフェイスの [電話テンプレート(Phone Template)] または [電話タイプ(およびプロトコル)] オプションのいずれかを使用して電話機を移行するには、この手順を使用します。

### 手順

- ステップ 1 [電話の検索と一覧表示(Find and List Phones)] ウィンドウ ([デバイス > 電話] で、移行する Cisco IP 電話の設定を検索します。
- ステップ 2 移行する Cisco IP 電話の [電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク(Related Links)] ドロップダウンリストから [電話機の移行 (Migrate Phone)] を選択します。
- ステップ 3 次のオプションを使用して、電話機を移行できます。
  - a) [電話 テンプレート(Phone Template)]: 電話機の設定を移行する電話機モデルの電話機テンプレートを選択します。
  - b) [電話機のタイプ(およびプロトコル)]: 電話機の設定を移行する Cisco IP 電話モデルを選択します。
- ステップ 4 設定を移行する新しい Cisco Unified IP 電話の **MAC アドレス** を入力します。
- ステップ 5 (オプション) 新しい電話の説明を入力します。移行の検討事項と設定の詳細については、*Cisco Unified CM* の管理のオンラインヘルプ ページ を参照してください。
- ステップ 6 [保存] をクリックします。

新しい電話機は機能が失われる可能性があるという警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。移行後、新しいデバイスは古い電話機の設定を継承します。

## 移行シナリオ

### 共有電話を使用している電話機

旧バージョンの電話機にプライマリ DN と複数のデバイスが共有されている場合を考えてみましょう。これらのデバイスは、同じユーザまたは複数のユーザによって所有されている可能性があります。共有回線を使用してセルフプロビジョニング IVR または電話機移行サービスの方法で古い電話機を新しい Cisco IP Phone で移行しようとするときに、DN を回線 1 として持つデバイスを所有しているユーザにのみ移行を実行できます。ここで、共有回線の機能設定は、電話機の移行後に引き継がされます。

古い電話機が共有回線機能をサポートしていない場合、古い電話機の移行後に古い電話機の回線が削除されます。新しい電話機は、電話機を移行した後も古い電話機の回線を保持します。

### プロキシ TFTP 上で実行されている電話機の移行サービス

電話機移行サービスを使用したネイティブの電話機の移行は、シスコプロキシ TFTP サーバの導入モデルをサポートします。

プロキシ TFTP 上で実行されている電話機移行サービスは、すべてのリモートクラスタ上のプライマリ内線番号を検索し、電話機の移行を完了するために、その電話機を自宅またはローカルの電話機移行サービスにリダイレクトします。

プロキシセットアップ環境では、Unified Communications Manager サーバは、リモート クラスタ内で同じ DN を持つデバイスを検索します。オフ クラスタの 1 つにも同じ DN を持つ登録済みまたは未登録の状態のデバイスが複数存在する場合、その特定のオフ クラスタからのデバイスは、電話機の移行とは見なされません。これは、リリース 11.5(1)SU8 では既知の制限です。



- (注) プロキシ TFTP で移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。移行が成功した後、電話機を再起動するには2回のリセットサイクルが必要であることに注意してください。

### 電話機の移行サービス: 複数のデバイスを割り当てられたユーザー

移行用のプライマリ内線が同じユーザ用のデバイスが複数ある場合は、移行するデバイスを選択するように求めるプロンプトが表示されます。

次の表に、考えられるさまざまな移行シナリオを示します。

表 3: デバイスの一覧と移行のシナリオ

	電話機の移行前のデバイスステータス	移行中の電話機の表示
シナリオ 1	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 未登録	デバイス 2 の電話機の設定が移行されます。
シナリオ 2	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 登録済み デバイス 3: 未登録	デバイス 3 の電話機の設定が移行されます。
シナリオ 3	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 未登録 デバイス 3: 未登録	説明、電話機モデル、および MAC アドレスを含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話機の移行に必要なリストからデバイスを選択する必要があります。
シナリオ 4	デバイス 1: 未登録 デバイス 2: 未登録 デバイス 3: 未登録	説明、電話機モデル、および MAC アドレスを含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話機の移行に必要なリストからデバイスを選択する必要があります。
シナリオ 5	デバイス 1: 登録済み デバイス 2: 登録済み デバイス 3: 登録済み	説明、電話機モデル、および MAC アドレスを含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話機の移行に必要なリストからデバイスを選択する必要があります。
シナリオ 6	登録済みまたは未登録の状態のデバイスが 3 つ以上	説明、電話機モデル、および MAC アドレスを含むデバイスリストを表示します。ユーザは、電話機の移行に必要なリストからデバイスを選択する必要があります。

## Unified CM パラメータ設定に基づくデバイスの表示

次の表は、Cisco Unified Communications Manager のリリースバージョンと関連する設定に基づく新しい電話機の移行画面の動作を示します。

表 4: さまざまな Unified CM パラメータ設定に基づくデバイスの表示

管理者による事前設定済みの電話機またはデバイス	企業レベルで自動登録を有効にする	デバイスデフォルトレベルでの導入準備方式	電話機移行サービスのない動作	電話機移行サービスでの動作
不可	可	—	デバイスがネットワークに自動登録されます。	デバイスがネットワークに自動登録されます。
不可	不可	—	デバイスはネットワークへの登録を再試行し、設定されたバックオフタイマーに基づいて再試行を続けます。	電話の代替画面で、プライマリ内線番号と PIN の入力プロンプトが表示されます。
可	該当なし	—	デバイスが事前設定で登録されます。	デバイスが事前設定で登録されます。
不可	可	デバイスの種類をアクティベーションコードに設定	電話の「ようこそ」画面で、「アクティベーションコードを入力してください」というメッセージが表示されます。	電話の代替画面で、「新しい電話機のプロビジョニング」または「既存の電話機の置き換え」のいずれかを選択するプロンプトが表示されます。
不可	不可	[デバイスの種類]を [自動登録] に設定	デバイスはネットワークへの登録を再試行し、断念します。	電話機の代替画面には、「既存の電話機を置き換える」というメッセージが表示されます。

管理者による事前設定済みの電話機またはデバイス	企業レベルで自動登録を有効にする	デバイスデフォルトレベルでの導入準備方式	電話機移行サービスのない動作	電話機移行サービスでの動作
不可	不可	デバイスの種類をアクティベーションコードに設定	電話の「ようこそ」画面で、「アクティベーションコードを入力してください」というメッセージが表示されます。	電話の代替画面で、「新しい電話機のプロビジョニング」または「既存の電話機の置き換え」のいずれかを選択するプロンプトが表示されます。
可	該当なし	該当なし	デバイスはネットワークへの登録を再試行し、設定されたバックオフタイマーに基づいて再試行を続けます。	デバイスが事前設定で登録されます。

## エクステンションモビリティを使用する電話機

古い電話機がエクステンションモビリティログインをサポートするシナリオでは、移行後に新しいデバイスがエクステンションモビリティ機能をサポートします。古い電話機が移行前にログインしている場合、ログインしているエクステンションモビリティのユーザは、電話機の移行中に自動的にログアウトします。ユーザは、新しい電話機で新しいエクステンションモビリティのログインを実行する必要があります。



(注) ネイティブ電話の移行では、エンドユーザのエクステンションモビリティデバイスのプロフィール移行はサポートされていません。

## CTIで制御するデバイス

古いデバイスが電話機の移行前にCTI制御されている場合は、新しいデバイスもCTI制御されます。これは、デバイスの設定が電話機の移行後に引き継がわれるためです。

## キー拡張モジュール付き電話機

古い電話機に接続されたキー拡張モジュール (KEM) が新しい電話機モデルと互換性がない場合、電話機の移行後、新しい電話機の KEM の「拡張モジュール情報」設定が失われる可能性があります。

次の表に、さまざまなシナリオを示します。

表 5: KEM 移行シナリオ

シナリオ	古い電話機 (モデル 79xx)	新しい電話機 (モデル 88xx)	移行後の予期される動作
<ul style="list-style-type: none"> <li>古い電話機に接続された KEM 1 は、新しい電話機と互換性があります。</li> <li>ユーザは KEM 1 を古い電話機から取り外し、新しい電話機で接続します。</li> </ul>	KEM 1	KEM 1	KEM 1 の設定は引き継がれます。
<ul style="list-style-type: none"> <li>古い電話機に接続された KEM 1 は、新しい電話機と互換性がありません。</li> <li>ユーザは、対応する KEM 2 (新しいまたは使用された) を新しい電話機に取り付けます。</li> </ul>	KEM 1	KEM 2	KEM 1 の設定は KEM 2 に引き継がれます。
<ul style="list-style-type: none"> <li>古い電話機に接続された KEM 1 は廃止されました。</li> <li>ユーザは新しい KEM 3 を新しい電話機に接続します。</li> </ul>	KEM 1	KEM 3	KEM 1 の設定は KEM 3 に引き継がれます。

## プロダクト固有の設定パラメータ

電話機の移行中は、古い電話機の製品固有のパラメータも移行されます。新しい電話機では、電話機で理解されているパラメータだけが考慮されます。残りのパラメータはデフォルト値に設定されます。

電話機の移行中に[回線モード]パラメータがすでに設定されている場合は、[回線モード]設定が引き継がれます。それ以外の場合、このパラメータはデフォルトで[セッション回線モード]に設定されます。

また、電話機の移行中に古い電話機で「すべてのコールをプライマリ回線に表示」パラメータが古い電話機で設定されている場合、新しい電話機は、電話機の移行後、「プライマリ回線上のすべてのコールを表示」パラメータを保持します。このパラメータを電話機の移行前に設定していない場合、電話機の移行後はデフォルトで有効になります。

## 電話ボタンテンプレート

SCCP 電話モデルを SIP Phone モデルに移行する場合、SIP Phone は理解しているパラメータのみを考慮します。それ以外の場合、SIP Phone モデルからデフォルトの設定値をとります(たとえば、標準 SIP プロファイル)。

古い電話機に固有のカスタム電話ボタンテンプレートが作成されている場合、新しい電話機は、電話機の移行後、カスタム電話ボタンテンプレートを保持します。標準の電話ボタンテンプレートの場合、新しいデバイスは電話機モデル固有の標準電話ボタンテンプレートを使用します。

表 6: 電話ボタンテンプレート: 移行シナリオ

古いデバイス	古いデバイスの電話ボタンテンプレート	電話機の移行用に選択された新しいデバイス	電話機移行後の新しいデバイスの電話ボタンテンプレート
Cisco Unified IP 電話 7965 SCCP	標準 7965 SCCP	Cisco IP 電話 8861	標準 8861 SIP
Cisco Unified IP 電話 7965 SCCP	ユニバーサルデバイステンプレートのボタンレイアウト	Cisco IP 電話 8861	ユニバーサルデバイステンプレートのボタンレイアウト
Cisco Unified IP 電話 7965 SCCP	カスタム 7965 SCCP	Cisco IP 電話 8861	カスタム 7965 SCCP
Cisco Unified IP 電話 8851 SIP	標準 8851 SIP	Cisco IP 電話 8861	標準 8861 SIP



## コラボレーション デバイス: ルーム システム、デスク、および IP 電話

- ビデオエンドポイント デバイスのみ、別のビデオエンドポイント デバイスに移行できません。
- Unified Communications Manager では、CF (Jabber for Desktop)、TCT (Jabber for iPhone)、TAB (Jabber for iPad)、または MANAGER (Jabber for Android) デバイスへの電話機の移行はサポートされていません。
- 電話機移行サービスを使用してビデオ エンドポイントを移行することはできません。
- 古いビデオ エンドポイント デバイスがロックされた状態の場合、新しいビデオ エンドポイント デバイスは、電話の移行後もロックされた状態は保持されません。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。